

先生

生徒①

生徒②

生徒③

(学校のチャイム)

先生 はい、着席。今日は予定を変更して、授業をします。

テーマは・・1 + 1について。

(間)

生徒① え？

生徒② ……いや、待ってください

先生 え、この公園にまもる君がいます。

そしてそこにしようちゃんが来ました。

さて、この公園には何人いますか？分かる人？

(間)

生徒① え？高2だよ、私たち、

生徒③ 偏差値もそれなりに高い

生徒② 昨日まで三平方の定理やってたよね？

生徒③ 昨日まで  $a^2 + b^2 = c^2$ とかやって、

斜めの線の長さに一喜一憂してた

生徒① ほら昨日の残骸のsinθが「僕ここであってます？

1 + 1するなら僕帰った方がいいですよね。自分浮いてますよね」って  
ホワイトボードから言ってるよ

生徒③ さっき職員室の前を通ったら、何か先生彼女に振られたらしいよ

生徒② にしてもじゃない？

生徒① 振られて仕事に手がつかないにしてもじゃない？

生徒③ そうだけじゃ、いや、でもさ、30代の2年間って重いよ？

そこから考えたら・・・

生徒① まあまあ

先生 おい、そこ何こそそ話してる、この問題の答えは出たのか？

生徒① なめないでくださいよ。

生徒③ そうですよ、1ですよ。

生徒② なんで？

生徒③ いや、何か冷静に考えて1だなんて思って

生徒① 思わないでしょ

生徒③ コップに入ってる水1つと別のコップに入ってる水1つを瓶に移します

この場合、大きな一つになりましたけど

生徒① まあまあ、そうだけどさ

生徒③ いや、だつてさ、そう思いませんか、先生？ 混ざり合つて、

境界線がなくなるこつとつてあるじゃないですか。

先生 (遠い目をして) ……いや、思わない。思いたいが、思わない。

なぜなら、まもるくんとしょうちゃんがそこにいる

その2人が一つになることはない。

それは「量」の話だろ、今は「数」の話だ。だから公園には……。

生徒③ 1カップルがいます

先生 (長い間) カップル……

生徒① やめてあげて

先生 (震える声で) ……いや、その答えは……

お互いの合意がないと成立しない。

ま、まずだな、も、もしも、まもるとしようこが

カ、カ、カ、カップルだとして

生徒② 無茶しないで

先生 その答えは(正十)十じゃないとできないな、

だから1+1=1の答えではない。

生徒③ なるほど、

生徒① 確かに

生徒② 危ないところでしたよ

生徒③ じゃ、こうしましょう。公園に先生がいます。

そして、そこに先生の元カノが来ました。2時間後公園に何人いますか？

先生 おかしいなw、泣いてる俺一人しかいない。

生徒② 先生!! ちょっと君(生徒③)、廊下に立ってなさい

先生 (涙を拭い、急に真面目な顔になる) ……間違っはいいない。生徒③、君

の推論は、感情論としては間違っていない。だがな、教育者として、その

論理を正解にするわけにはいかないんだ。…… $1+1=2$ 。これは絶対に、これからもだ。

生徒①　そうですよ、先生。それでいいんです。2人いたなら、2人。それが事実。その方が、健康的ですよ。

生徒③　そうかな？

生徒②　そうだよ!?普通に考えて $1+1=2$ だし、揺るがないの!

先生　そうだ……。お前の言いたいことも分かるが、 $1+1=2$ の方が「安全」なんだよ。裏切らないんだ。1に1を足せば、必ず2になる。

そこには期待も絶望も入り込む余地がない。

生徒③　いや、でも、その感じ何だったら、 $1+1=2$ だけでいいんですね？

先生　は？

生徒③　 $1+1=3$ や $1+1=4$ になる未来は考えなくて大丈夫なんですね？

幸せな家庭を築いて、子供が生まれて、家族が増えていく  
そういうことは、考えなくていいですね？

先生　え？

生徒①　先生？

生徒②　まさか・・・

先生　詳しく聞こうか

生徒②　もう、三平方の定理に戻りましょうよ。ルートとか使いましょうよ

ほら、そこで $\sin\theta$ が待ってますよ。「 $\cos\theta$ まだかな」って

先生　いや、今は $1+1$ が何なのかを解決したい

生徒①　2ですよ。

先生　いや、俺、4がいい

生徒②　2なんですよ

先生　いや、4だ

生徒②　違います

生徒③　いや、でもそう考えたら、 $1+1=8$ の方がいいな

生徒①　はい？

生徒③　何か一人と一人が集まったら無限の可能性や無限の力を出せるみたいなの  
なんか良くない?そういうの

生徒②　良くない、 $1+1=2$ なんだよ。絶対に

先生　いや、4がいい

生徒③　いや、無限が良いです。

生徒② (絶叫) 良くない!! 1+1=2なんだよ! 絶対に!……いいですか、もし、1+1=2ではなくなったら、数学そのものの土台が揺らぎ、科学・技術・社会のあらゆる体系が不安定になるのですよ! 橋は落ち、飛行機は墜落し、あなたのスマホの計算も狂う! これは「文明が崩壊する」というより、世界の前提が書き換わるレベルの哲学的・論理的混乱が起こるんですよ!

(生徒②、狂ったようにホワイトボードに別の数式を書きなぐる)

生徒② そうなったら

$$sn(u, k) = 2\pi k K(k) \sum_n = 0 \infty q^n + 121 - q^{2n} + 1 \sin((2n + 1)\pi u 2K(k))$$

この式も、

$$\Delta(\tau) = q \prod_n = 1 \infty (1 - q^n) 24 = q - 24q^2 + 252q^3 - 1472q^4 + 4830q^5 - \dots$$

この式もなくなってしまう。

(\*この式は例として書いたので全然変えてもらってもいい)

こんな、美しい式がなくなってしまうのは、耐えられない

先生 俺だって、1+1=4じゃない未来なんて耐えられないよ

生徒③ いや、1+1=8の方が綺麗だし、未来がある

生徒② そんな、自分のエゴしか詰まっていない理論認められるわけないでしょ

生徒① うるさい!

(間)

生徒① 知らないよ。もうどうだっていいよ。何が正解で何が不正解なんて

こっちの世界から見た、それぞれの1+1の答えは同じだよ。

正解で不正解だよ。

先生 ……同じ?

生徒① 正解で、不正解なんだよ。先生には先生の「4」が必要で、

生徒②には「2」という秩序が必要で、

生徒③には「無限」という希望が必要なだけでしょ。

だったら、互いに認め合うのが大事なんじゃないの?

先生 確かに……

生徒② まあ

生徒③ なるほどな

生徒① 正解にしようよ、全部。お互いに助け合ってさ。

4であり、2であり、無限である。それでいいじゃん

(長い間)

生徒② いや、でも  $1+1=2$  だよ。

生徒② ほら昨日の残骸の sinθ が「えっ、2じゃなかったら困るんですけど、僕出てこれなくなっちゃうので」ってホワイトボードから言ってるよ

生徒③ いや、「 $1+1=8$ 」の方が正解・不正解を越えた先にある感じがしていいな  
先生 そんなこと、言い出したら  $1+1=4$  の方が一番温もりがある答えだよ。

これが、正解になった先に、「おかえり」がいる気がする

生徒① 知らねえよ

生徒② ほら、さっきの残骸の数式がまた言ってるよ。

「えっ、2じゃなかったら困るんですけど。

僕、答えが  $\sqrt{2}$  とかになる予定なんですけど、大元の  $1+1$  が狂ったら、

僕、このホワイトボードから出てこれなくなっちゃうので」って。

生徒③ いや、でもやっぱり「無限」の方が、正解・不正解を越えた先にある感じがしていいな。諦めたくないもん、俺は。

先生 (チョークを握り直し、憑き物が落ちたような、でもどこか狂ったような笑顔で) ……そんなこと言い出したら、やっぱり「 $1+1=4$ 」が一番温もりがある答えだよ。これが正解になった世界線にだけ、「おかえり」という声が響いている気がするんだ。

(生徒①・生徒②・生徒③・先生が言い合いをしている)

(先生は「4」を、生徒②は「2」を、生徒③は「8」を、同時にホワイトボードに書きなぐる。

(学校のチャイム)

フェードアウト 完